

開催にあたって

日本に仏教が伝わると、都を中心として寺院が造られるようになる。仏教が日本に浸透する平安時代の初めころになると、平坦地に造られた寺院が山と関連付けられて山中へと移ることとなる。山中において「神」と「仏」との交感する世界があったと思われる。

さて、長野県には山を信仰対象とした多くの寺院がある。これらの寺院の多くは、平安時代から中世にかけて創建され隆盛している。これら山寺は、その創建や信仰の形態、性格をそれぞれ異にしている。この展示では、北信濃のいくつかの地域を取り上げ、山寺における信仰の特徴を明らかにする。

本展示開催にあたり、貴重な文化財を快くご出品いただきましたご所蔵者の皆様をはじめ、多大なご協力・ご指導を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。



目次

寄稿

信濃の「山寺」―その実相と遍歴した宗教者の役割―

牛山佳幸

図版

1. 古代信濃出身の高僧	9
最澄の東国伝道と信濃	9
信濃出身の僧・恵亮	11
信濃出身の僧・命蓮	17
2. 山寺の風景	23
山千寺	31
圓龍寺	33
3. 更級・埴科郡の山寺	35
千曲川流域の経塚	35
4. 小県郡「山家」の山寺	49
5. 筑摩郡「麻績」の山寺	59
6. 高井郡「小菅」の山寺	73
作品解説	89
展示作品リスト	111
写真提供	113
参考文献	113
謝辞	113

凡例

- この図録は、令和元年九月十四日（土）から十一月十七日（日）まで長野市立博物館で開催の特別展『神と仏が宿る里―北信濃の山寺―』の展示図録である。
- 図版の作品番号は陳列番号と一致するが、陳列の順序とは必ずしも一致しない。
- 作品の保全のために、図録に掲載された作品が会場に陳列されない場合がある。また随時展示替えを行う。
- 各作品解説に付した作品データは、番号、指定、名称、員数、時代、材質形状、法量（単位はcm）、所蔵者の順に記した。
- 文化財指定については、作品名の前に次の記号で記した。
 - ◎ 国重要文化財
 - 県指定文化財
 - 市町村指定文化財
- 作品の年代については次のようにした。
 - 平安時代（七九四―一二八四） 鎌倉時代（一二八五―一三三三）
 - 南北朝時代（一三三三―一三九二） 室町時代（一三九二―一五七二）
 - 桃山時代（一五七三―一六一四） 江戸時代（一六一五―一八六七）
- 本書掲載写真については、ご所蔵者から借用した写真の他に、個人並びに機関よりご提供いただいた。巻末に記した。
- 本展示の企画には、牛山佳幸氏（信州大学）のご教示をいただくとともに、玉稿を賜った。
- 本展示の企画及び図録の執筆は、原田和彦、竹下多美が行い、図録の編集は、原田と樋口明里が行った。
- 本展示に関連して、企画、資料調査、資料収集、写真提供などで多くの個人並びに機関から援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表する。